大倭二十四孝 後白河
平樣子

七八

特別
へ13
4200
4

宮城県図書館

宣方

58 2016

て月日を送るかのうちに一人のわらわを産
む母とかをりかつてよそりあるあるらしうつ
をみまうことこそかりそれば心ひとつの母よいとあ
ものをもとめ
母はうちそひねるうしろめたさ
八幡殿とのたまへよ八幡殿
かうで書こで先さうの男よりづきかうとばかりひと
それどばかりをもあてこそうまのこもも
あるうがはかりのびあまつ書まつれくまと結を
とあるこそうをもつ門のかりも底の母はうを紙
は男とのたまをかうをとをとをひをうを
うとそのそうふやそうをとをうをうをうを
ぐりのてあるあていて門のかまで立おのうと

約束つく継母がたくさんのまたにぞたつを
けるかうの恋いきしとをやたくさんにあるさむとをふこ
ひろうはぶさ男べくびくしきさうるやくいさ
んの父御のゆゑもとうをばづけをまいりのぶ
こうひハけるやよあびめくゑ父を結でとそ
やうまとい元てうきそれば父をあて作りのあん
ちがんやあろこが母がるあんべいくこあでいあべ
さとりもくくとと源をあべしやくとあしや
ぐそを男と結べくそとらひけるとかうの恋
ハたあるかうけあそんとをとりあ西花のあう
くとかべがたあろうあるやべけたあうひとをごみよ
しふをはひくれの神とむをんで扇ようけ宝べら

ひたさらとかのれんおりよく紀あり白狐乃あざあさ
つとりて母と書ぐこあまあのうをやのあと通りさ
まりたうちをきけとカんをれハあるを男のまめやうあう
が神とかけて思ひあるうかうこれとカんうちを言
あげるやうたかう一の恋をうふさあーかうべとむ
とはあべるや一見をとやるまべさそこひをれハ恋び
男ハ見と実ハとねいくらんでうふかうこをとん
あうちあ庭うこさあ恋ひうあまひうあこいあま
うあべこあてう庭べてうりかをーだのいあとうあ
をばべうをとば庭をようげをてうそこをけとうを
いべくかを恋とこびあえ行来をあべどれうのきうう
かうくの庭いこうりあうをとうりて世原よあげ

かけぬをとゝりてゆをとゝりてはこゝろをうちなをし
しをゝ身いかげう秘こゝろとゝりとゝんで安いなりちあるめさ
ゝまゝ代ぞをもねをとゝ人ゝ様ゝ歌ゝたゝ和ゝんをとゝけゝさ
いくゝもゝに第ゝ四ゝこゝろゝゆゝつゝまゝりゝくゝこゝとゝゝめゝくゝ法ゝげゝも
らゝひゝてゝげゝりゝさゝを五ゝ寺ゝんゝたゝちゝうゝくゝりゝまゝりゝそゝれゝを
ゝりゝどゝかゝうゝの重ゝハゝ俗ゝの愛法縁ゝよゝ出ゝうゝちゝ山ゝ尾ゝ
いゝぜゝちゝろゝこゝの矢ゝよゝげゝちゝろゝ動ゝけゝゝこゝめゝくゝ鶴ゝ義ゝを何
とゝりゝくゝちゝろゝこゝとゝのゝまゝせゝけゝるゝふゝをゝまゝくゝをゝ身ゝさ
くゝらゝんゝをゝはゝちゝわゝを四ゝをゝは面ゝんゝこゝの程ゝふゝもゝ身ゝくゝふ
ゝ法ゝかゝうゝりゝをゝめゝの形ゝうゝりゝとゝはゝくゝづゝをゝこゝざゝ宿ゝにゝう重
山ゝよゝりゝこゝろゝうゝき法ゝ清ゝこゝの重ゝなゝきゝうゝの心愛法縁
のゝくゝをゝこゝをゝよゝに和ゝりゝくゝあゝり重ゝをゝろゝろゝに枝ゝ性ゝをゝのゝきゝれゝお

きうがでとけるかとでとまうけうがやくわりてやや
うまれるぐひなすきみ菊とちうちうはふとちうとのまま
まばたえいはくくあり菊きんくはんちうのめが
一千菊ろぢめこやうくのうがされどふまれ
をりとろづけ月とんあうぐ
やりきちうこあり又かうのなげくをいとおけ
まばたえ菊とあうこあやとうひふこびかけうちく
ぬうわかうこりを知でこまうこまれとのまを
けるふをまくさいまうこうそうこうれるくめで
たうしで百年ごよりひをたをりけうきのかうこび
ふにとをの代までをやわうこれあり又はうとひきう
なきふか菊ふろ仙へなりしぐけ菊ぬうまれ

がりぶ人民ふまづらり。一さび屋金ふ行もしきて
たろうことをそうに者ありりてゆりされど山馬張こびく
にりどう事ゆりを世ろようこび知りとりかること
ろ京さどくいま後方ゆくゆ山知張りを作ろこと
き刊

後白記

年の橋ま

鏡宗那杜の関ふ年の初年と中ろ人年
まりようけてを心ようふ称大家と
つどくさまあるさこをるあ山のだけふ見給
ぐ社門傷こりれりを紙結び入そまり底祝
ろうふ雑庭の憑をつぐらを祭ふまと祭ら
夫梅ろ人を祭ぐくを深ゆまあ門ふまこをる
て家ゆりあ人を祭ふ行会とるくゆこ
生こり出ろまば梅こさあ山ゆげ祭ふり中ふを
あろこで社まりりこ一人年ろく蟹ふり
花を一えぐれ年ふ祭ふりすふろえて足祭ぐ
ろふ一度ふこりまこにあこれ

ふ神うそ小乃ゆるこうまつ勇治ゆ五郎ゆやこうく
ほどぐとゆ治んどしたこそぐくよこうのむつで
きこうこしたがくて夢ハもまこうこんこうこうかくふ
うあのんこいたがゆめうとん治ひこ治伊ようこう
野ゆんこ可ゆ可ゆ可ゆ

年の月の間蓋の中に蓋をつくりまわりくを国たちくの人ごとに海ゆくろ百姓を招ぎ
まつぐりしくた月つくに家たりまれば人ごとに代家よ
神へのがすぐさと一家の中とそこひ拾ふ人さわぐさ
人もたちまちよい稲がりの中より四後とそ家
くさぐんぐいなくあり。そ法までへ世よりもの神
まてまこと代家と呼ぶ。数のたり
とくを拾ふ人をひくろ百四後ハ拾りの神に
稲ものと関家よくげ法まくけたくさてまつぼ
くよい年こくせわものるやこたくこの家を
数一瘡ごとくの先宮の家のやまひ治ぐ法よ
がりとみしくば年中よりの中よりぐ

きくとあり先てのくまつりくけたまり飢
いくくてむりくあり。稲よいまぐくける稲くさ
ぐどたのこりのり我部の物米ぐくさりゆりやた
くくひくつぐ。又西後よい又百余町のお屋とわさへ
稲子初めのぐ八代家と牧家一三代後あり
にくつぐ。ほすナ家よりあり。ぐ新へぐせの
がり。間紀屋こたて元脇せくありくとこ西
くくのまへくくくの人千余人の人を拾
くくに湯とあぐ。沖拾ものまとばはんやくたい
し先をりくも我おが一家い先の沖くくん
くくくと外先まへいくぐう稲よりあくと拾ぐさ
くくくと年中ひくくさくくいくやくくくひのくさ

りあり。しかるに、このこまうひて、家とあづけ、行ひ、ぶつ
むなりの事、たとへば、親のまたふくいつものとき、人をも
くるべし。うりとて、我浮世ふるべし。わるあるべ、ばばあ
ばあ、とてとりいるあうつくさとてのぞまづやしこの度
百ぢび、ものもり、生死をこのあるひ、あるけあるよ
りあり、是のもんまうくつとて、家の命をたうさぞし、桜
まうとも、我はもしよりあてそうくと、家とこが
しきえいりやうあるさまへ、桜まのわうへ、ぶつひてあ
あるれ、や、父はさやうに、成活ひて、我ふいあ中と、家べさ
とれとも、ぞてゆをもの、と、れりくこうぞさ、はあうも
打まびあるさまへ、はは、黄ふとて、死つ、打まへ、まあり
わ、へ、と、一度よりあ、ものとうさうあ、むめのとありくし

もやう、あ、ふとれは、同ふかてて、さやうふうこうびむり
うるぞや、元甲斐あるさ、れわり、桜をやふじとをこうはむ
あ、くとを、又、ふるをてあひて、ばけうらびるべさ、桜とわ
死りまくくやとり、死つ、桜をいざさうふ、さうはは
ばまへ、ふへをのけ、たは、何とさ、変と、禍て、きりて、三男生
死の、ふてんいうふとて、まあ、ま、ぶ、ぶ、ぶ

とありさしんをおこしくさうりんをはらひおろしハ
我ん自ゑを廻福をあてハだゑを三業懺悔
得成とのゝまへハ彼平ゆゑをひてだをゝ
ゝ廻ゑをしの分みてハさうりんをはらにやと
くうもんをいろふびつきをいろ紙ゑ
ちとつり大俗の清分ハ三毒懺悔ゝ
ゝ廻ゑをとげ彼ゝ彼平ゆゑをひて紙
門のつらゝ稱くあらとけ面ゝハ
ちゝひを稱ゝひゝゝ時ひゝゝ
ゝゝをためをたてをれゝ
ゝ中に彼ゝ西方安樂世界のあゝ法花の安樂
にをくゝ彼ゝ字十八の願文あり第十八願

願文ゝ一切衆生至心信樂欲生我国乃至十念
ちゝひ彼ゝをゝれハ南無阿弥陀佛
彼佛之願力ゝ往生ゝ
佛の功力ゝひ生九品乃浄土ゝ
をゝ廻ゑをゝ廻ゑ
得生極楽ゝ彼ゝ
彼乃彼ゝ念佛ゝ
てゝをゝゝ
ハ空義たちまち未来
まゝゝ彼ゝ
てゝをゝ
廻ゝ

まつてせんくあまさこのつまもとをとりふあさはあど
碁いあまるまのうのうしろふやどさうえへるひしと茶
あでこまつてせうびつてゆうろうぎさそあるべさふあるぐれど
蓑くろうごうしろくそのへろろ此蛇色よそろつて
一斤のそうとあるよろう。碁いはりひよたえうひは
芋ぶひていうくうう毒まるるべさとそよ宣金よ
母もむんとこの芋ひてまぐんりりのとあ。もぞるまぐい
とんこ芋ふとめのとやせ屋逢ぼうこあふとどりつ
さをとぐ先まつてせおるるとろのほんやたるひ毒こ
うれりまうびとをなふふ碁のろりぬべさうの
うへ撥るのゆまをばあつてそんとふれりめうび
やと屋うくふりとで先ろう。月ぐいあるまぐるのた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と又おもひきるれうに日来の人数あつまりて
後もとさの梅まのぞんでおりにいきりひまきれ
ハ梅ゑ此はさめあつまり蓋い寄ちりぢりを打うち
むとこりうまし人を同じ人ちいさ人ちいる池
亀川小嶽をまで免ぜ人ちいんひろよて一ぢて生数
をとつもとたちくわぢ数くにつりうりを河水後
のこりあさふあまよむしりひさそかくい天下の縁
あるとおもんでそれふまつぢさや入ハ色姫よ
あをとべこうやいうふあんくらひろれて産中のえ
大おもれとあ此ハ好ものでこの古屋ハ山ゑを
まし面をばられいたくひやぢきたで天下のはさよ
かるひあふをれ主とハあが使ハ人ちまてい

てそれうにおあんだるふ主さて見とぞ主と考
てうりうまし屋つりえとばいそぎ諸対とべこの
なりはをうとばあ郷とすりとをうつと
て郷とあるとけうえうけうえ人の人くハ結えん
よちぢひ元くよおちりうえとばちでお後ハ
教あ絵のはたものとしかぢ赤ばもんの見
みふあげうをたりしばりふ二人をぢりけうまよ
郷しあふもしとひうふ二人をぢりけうまよ
とたちくれふつけてとばあそにくれ主
ぐんうひふちはけものもそれしよちぢハさりと
いうと毎やくはは家ちりくうあと毎
あれとちしハ入りどの主を物をれら郷へうりけう

とてもさいまいてやとのぐさだめとつく鏡と
つうらおやこたよとてこめく豆をつしてゆ後ぐふ
すとあひやぐて部ふたよむうひはせんといてそこれへ
りをせうとうふをゆ中よれ年ゆにうまーさわう
九しとやえてうとうをはうとやうりをひうらうさうぐ
あまうのまのつうさんぐこの中をさわゆ神をて
京おひ屋紙よとつうりうまをうくれ西ひこ
ぐしとゆ一れの芋ん事ふうりうゆとわうこうやれ
豆ぶいこうふまゆれりとい蓋こをうでたこせよ
きうゆ事りてぐこつぐおうこれぐだ蓋の伝説
て海ひさゆ羽後ぐうを方よはどゆてこのとをと
京ぐひをうを面うえくこひうをゆわーよぐうを面ひ

先ゝてをたちとりけまたはつくちんなかやとせんと
ゝりてだわきれはのきをそてゝうゝ極あり
ゝうはけにとゝをんまつゝせてさくゝをひあさは
まやはゝさちづゝさやべあ一あをゝ流ゆう
勢あやとつ世神をとりてひゝさゝて榊ふのる
をひゝさはまゝりをゝせまつゝせ寿を紙をれあゝ
乳母をゝ引ゝて屋ゝをゝ一つ和歌て後が御あえ
屋ゝはゝゝゝをれへおゝうゝゝゝ

もりとわすれうくしとなりてやうやうに
つとうつとおもの世の飛つひ
とうくしまじ・おつざせうまとそわまく
ていうくうとあまをんてうちでれるひてあとまかい
まそそれりけうめとはいはるとかまつせる
れ・ひをめら祖りとうをさくあくごううき
人の約束をもかんてはりりんてはりえをひ・ごん
よやうこ義分けの祖經とうこうんくうたん
やうとうこをらえうこうまいりありとるこせ祖ようり
うくこうこうありくゆ山經とうごひうみかの見とのを
うしに金幣の祖八ゆうありうくよたひ祖
經八うくうゆた新とごにてうごまびい祖とうあ

こうのしまひとのうさひ祖よい祖部とうとうこのひ
祖をと漢度しかうこれどうやゆ後一うびい浦ゆ
祖とうごひうくしいゆうとゆ大國果いとゆよひうひつ天
ごつわうくゆまわしぴうゆ祖ゆうこのりゆんこうこ
しゆひ業祖ようくゆかうまでこたまとうひゆ
祖りゆごうこ祖ゆうりゆ梅ゆいうくのうまうとゆりくこ
ゆゆるうひてうくくを日ゆ・やうこりうかうて立こて宣
金ようまゆゆを文ゆせんくとうひうまりゆくゆ文ゆ
をうこゆ毋うをかうつ・うこうゆりゆ・そこゆ座の声
つどのうとうこゆ月ゆ祖未ゆ花うこ祖ようりんまどの
世うこいゆまりゆ・どにゆうくにゆせんゆゆけまゆ父毋
ゆ祖ゆた祖うよゆりうけうこゆ月とうこごゆうとゆひうけうこ

うりとれあるくものまなるに濃べよりでつとたて
まへばん寒らのはあるさるまにこざうれつたるよりて
あるとまのさませろへでおるけるさ男二人ゑのもち
あるらの伊乃男をこやけるふ桜子ゑはをけるやういこ
ばるくはあるとにとむへのるまそはが父みは初めよて
をれ母よやりおうまとまて入くてあるとつまをあまま
つとにまづてきはありきはゆとかまつをるとんるつ
くはまばを父をるでやるとるひ見までをありてはく
はきまへ母へあまをもたる桜子みのはとをとかく
うくしのをやかをれるはよのがりてをるくうくき
みをばうまるをんるさて代物はうれまつをるきやく
ふ家まのつるくはるひをとへ一るまへ一るをとへた

代物のなるはるをまつるせんべいさく
たまよりは代物はうをとるさるをへ桜子はゆをひ
ておまをよんをるくる一むのるうへ母ありて桜子の母と
をたるはいるで母屋二人はるをるて話をへ母と
じくはをとをくるけくるびをを行けるを母へこれと
おれ母の屋をるるはゆき桜子の母やゆまはは文
と料見をあるにをるをるをるをるをるをるをるを
うをにをるを母も乳母も行をををまへ話るをまるず
はるうをきはるをるをまへばるををををく
はるるのはあり話をかまるをへはあるりふはいるうく
行るるをるをへはあるりふはいるうく
へあるへよるをるをるあるはるまるやまるをるをふあ

つま・母はいとゝ人をあわれ・思ひて・ものもいはせず・ひてゝ
梅をよはうるまでとゝさまよりていわるゝ・やうるゝ・
ゐしてゝ・ゐ・ゝ・とゝ・ふとけ・ゝ・ひ・ゝ・
を・ゝ・ゝ・ゝ

くの壁のとをぶしの内はくそもてこさうせ給ひのぞ
いうぐうりなげきまゐらせ給へ文はわぐ[illegible]
ぐをあらけまゐ給ふとわぐるやうはいんぜんとり
よもうせつ神やはるこのことをけおんんとをの
あんとおくくりそぐじまをばさやこんひりまてゆめ
ぐをたぐふん花して手乃ア[illegible]ふてせ給ひ文ふ
をとをあげてすくくひくきんあんぐだ母をよをそ
いるぐりいはくくを乳母ぐるぐりをやるくをふしぶふ
をとををくをりとはぐ[illegible]ぐをくをいぐ沖強ぐ[illegible]
なぐを先れいませいのちのうちよいるくをめぐを
あるぐしくをくて計あり

時風ふをくをまて約束のまをくをんをとはてみよを

たくくをくをを梅をとををくをいあはけやい
ふくををよいむくをものやぐをうをくををををりやふをまを
をくをまをくをするをやるぐりけ一やくぐりあ
くいはくをて母をいをくをををぐをくをぬぐまにぐをけふ
ぐやをを乃るぐを日乃をまくをれ乃あの梅をあをまを
をりんをばをうぐををしををるものちををくををを
ををををはりをぐををひくまひをををこぐれを
まくをる梅ををを乃る風をくりやくをを月日をか
ををりくを文をををくをのるりしふを年をぐを
の御をのをををくを飛をを年をのくをををを
乃ををををよをくををのぐをあをしがを三をケ年
ゆを基和乃御約束をををゆををぐを

れたるをもいはらぐぜんのまようちておかてこぐ〇ぢぐ
るふ事〜きにはわりうとまるへよわわてちぐれ
まふふいひてうきまとをひうれどわ屋乃浦ち
うさわよわるにをあ〜ぬはを西ぬはふけくこう
やとうふこんへんこはあ屋ぐてこぐ〇ぢりくはもとうと
乃ぐてうまはぐまひうあ屋りのうぐあてこぐのあ乃
ア也やぐまぐらるりぐてしぐ西よとこ行〜てこ也
ぐ〇ぐこ涙しせうきあ〜ぐどやうくまうくぬまく
うり少のうげはあまものわこめちぬとどげふを祇
わうと乃はハうら乃んとく
ともひんをうてわまうう兄はや量やうふるるぬん
と鄭ぐけまはあ乃はいあ〜の屋よわううやまぐふこ屋

とはどうひくやぐそこうぢはうち〜第門ちんとふ
とめのとはるつけくだをや門よ〜とのしはりくち分
はあぐふはうこうあ乃てぐくとうまうあをとをれやの
ん〜うぐ〜こんありくこんあるけまて宮西はぐ屋の杉乃
美杉のあうこのぐあうぐむうらぐうとをいあうきをれ
とれぐみてよはうをまひぐうきてゆうんてのうまへぐさ
くうはあ屋ぐてはしあこうぢよむをびてあもはあま
移ぐううちあうぐうきて第乃わをアとうしくとはうさ
こんのうえは西をたぐ〇ア也まうでをありてうあうあと
はあはのとはうはうぐあうぐあ〜まはれへ
とうぐをとひうを肉のまうりぐ〜へ屋りのうちと
乃んくぬをれあうれをあ西あや世よまうしくしを西を

ゆ屋ちこのうちに人をたをらしごめ給ひてはくしふいれ
そうをあるべしとあるうちにてあるまうしきこの和
ふたてこんひの義を目のあるまけつかてあるべしかく
ど海もそで先をえんやうでは墨のはあるまいりは海
を月まつうちうにわうまうしとおもうふはとそうやん
しうもわぬさ海のうはのうをのてうりさうこ人
ろんとはたてとを新すてわてこたづうを和はあさぬ
うちそうをはしんをとは弟んでは行先和とはのうま
りぐたづは海よりもをびはつりはやありて吉郎
めのとふむうひあるえうさは海はづくふうれりまんとう
先はてはあううとあるづはうやううれはをゆまはゆよ
わうぎはあわ其のはんはうはうはまのは

（とはりうう）ぎもれは風のたうのはあづまてわ
らざれどうもあをつうこうこうとづりうそあうひふ
あうこあううぎ人とはひうとはてこはをはいうあうま
やらはぎ我おうく新とうくしぎうあ海のあうあうあ
つうとううづはああをはは和ゆうはるをうんさん
とうぎれとうのこはうまうあうはうはとはいうれ
とたのこふぎうこあ月ををうづさうれは義のう
つうこぎ人のうとはあげくどあうこあうあうみぎ
いあをあのうこをはさあはは和とはは弟んでとうあのやうふ
はしうあて夜はうづ義あ一をげこぎうそはいうれ
あはうあうぎはうはうはやうぎれは世よはれうあ
をわうぎれはいうやうそうそうはゆはうはいのうれあうとか

ちりぬるをわかよたれぞつねならむうゐのおくやけふこえてあさきゆめみしゑひもせす
やんくいろはにほへとちりぬるをわかよたれぞつねならむうゐのおくやけふこえてあさきゆめみしゑひもせす
同きこゝろおもふてもかぶとよりもちろ様いわれまへてはなをとそ
とゝうこと成て四基よりもちろ様いわれまへてはなをとそ
さ勢ふかよ戦ふこゝ人ゞ様ふとめぐり勇ゞ出まい
ら勢て二度ようこそびの四基よりそゞしと所こ
まくこゝわけ唐のうらとこいづゝそゞいもこゝふ
出ふひておごりわけげふんこうふ様ゞ出みくこゝ
すぐこゝと百度百度ようこうんて戦こゝうふ出ゞ
よいこゝ西こゝ山ゞよ光ゞ様ゞ様ゞ様ゞ
けゞおぐこゝうゆこゝとれゞ人ゞこゝまゞこゝこゝ様
よ様こゝうこゝびゞ商ゞ人ゞのうゐつ光ゞこゝふ世こゝん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屋ごとにゆきて、あきんどひとりひとりにあきんと
と親よりとのまひて、黄金百平あらうのうち一千
竹人商人よりせ給へ、あのあるじよりこびるを
たとぐつまのくもそとなびくなびくを
四神のゆれ生ありとうもこつがもわかりそう
さて法師桜子とうるひ桜ちふうり給てゐん
しをもてあつかつて
のうかうがくん毎ふとぐれ一家とまさとさる
ほとぐさを日ごにそひくうとんてあへば
帝ぬてうわひよにぐひあるあばくりがて年月
くさあればさてごあるくやナル業ごあるせ給へ
けう海生あるごのまぬ
ろうを陸ちをきあるの國

同ぶぎやうの郎よりけつが橋川色の花ちらがてゝ
ありめらうゝさうめてゝ花見ぶしやあそびを
うゝ京わらわをいそぎちのほうをゝ河へあをうゝとゆつ
ひわりぶぎやうをかひて砂ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
まゝ色ぶしてゝ子ゝ菓子ゝ京ゝ京ゝ
児ごうじゝ新子ゝ橋川のとゝ山ごゝの
まつげよ結ゝ京ゝ同やごは剣面ありてゝ川ゝ
つゝ行ゝ子ゝ花の京ゝ京ゝ京ゝ
ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
ゝて花ゝ京ゝ京ゝて橋川までの京ゝ京ゝ
ゝ雪ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ

ぶをゝ京ゝ京ゝ同のゝ京ゝ京ゝ
人ゝ人ゝ裏ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
びゝ京ゝ同ぶぎやうゝ橋ゝ京ゝ京ゝ
ちごゝて我ゝ一ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
ん川ゝ京ゝ川ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
世ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
人のやゝ行ゝ子ゝ色ゝ京ゝ京ゝ
月ゝ子ゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
ごゝとゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
ちゝてゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ
ぞゝとゝ京ゝ京ゝ京ゝ京ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちとけわかうの方紙よりこそとりあつかはなるべけれ
ものとおもひ給へんとて
ひとりせうしの御ふみのうちとりあつかひ
ちまでぞ世のうきをなげきあはれ
とよくまもりひく樹のよりうつくしきをとりあつかひ
くうあるときとりあつかひ
ゆへ給へるをうちさらひ給へるをとりあつかひ
樹のまもりとけ給へるをとりあつかひ
ちりさしつとりあつかひ
をくりかへりみてまたもとりあつかひ
ほとりさよりうつくしきをただ
ちりぬべきものとのみ
思ひ給へんよりはこうち

ぬるなりとおもひ給へんよりはこうち
なるものとおもひ給へんよりはこうち
いるものとおもひ給へ
世中にうちとけあつかひ
とあるをとりあつかひ
ひとりしうちとりあつかひ
ひ我ものとつぐべきかぎり
もうちとりあつかひ
ふるさとの御ふみとりあつかひ
りひでをうつくしきをとりあつかひ
つまとだにをうつくしきをとりあつかひ
し給へるをとりあつかひ

べきなど、稲をどうよりはりをたてられたる法師
たづねあつまりこのやうにおきとえんかう法師をば
はちごを出家はとうの法師よりも法師はまさるらんの
いそぎかとやつさづやと見えりとて法師をば
ちよはれもりさだはるをはじめ八月つごもりに
きとしはるかいまは日とをるまつ
まつの間あがまつごとくくやうの出家とふ
くそのませのひてをこの法師をばひくこと
ひ稲をとりまつ勢をうとけれうとうとうと

たちうつるとのりしちばかりハ梅ゝのはなのよ
うのまゝにて雪とそ見まがへてゝ
やう〳〵梅ゝのこゝろのこゝろをあらはしよ
とゝ詠めるにようやうあまたゝもあれ雪のよこの
うゝやうにこゝろのこゝろをあらはしよ
雪ハ梅ゝの雪のうへにきえて
あるひとゝいやうにとゝ
たゝんあるべしと侍つるにこゝろのこゝろ
雪ばかりにてこゝろ雪のうへにとゝ
つゝこゝろのこゝろにてこゝろ
あるひとゝ法師のゆゝにて
けるまゝにてゝ

ゆゝしけるハかのうゝ四一下りの
おとゝのこゝろにてこゝろ
てまつるべしとゝ
ぐてゝのうゝ
おゝまゝうゝふきゝ
うゝてゝひゝうゝ
うゝゝうゝこゝろ
ゝ法師よゝゝ
とゝうゝ
ゆゝこゝろ
きばゝゝ
ゝ法師のゝ

まづ　きさごそやとそ　あるとをの　こ　ゆ　こ　ゆ　ひとて
あるりそ　ゆ　ゆ　ゆ

ちをもゆづるべきことわりあらくさしよりたれたる
ふさとあるあくだたまてこのこまひく
おのこのかはまあり山のちかきよりゆみをうつ人ハ
ゆかんとしてゆみをけるへいどうをあまたこゑて
あり見まいりてくこうに出あひあるとこのほとり
いと狩をこころあるまへハ法華ハ法をうしてさるべき
しるしをこころ得ぬ人ハ法をうしてさるべき
さいをくこうをとりてしるとしてしるとしてしるとし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人をこそ川をそのあづまとあづけなど
ぞをもつ海をもつやぞやそこどハ物とかおもきもの
とりひくがらくとうらもらくへ弟花やそれそれうん
がく池の蔭ハ鶯ぶときんぱう鶯やそれうん
ハかくとあ強とまいとやんのおのそそやうさよど
ぐさよあをにあ物くぶ。高砂ハそうそうびくくんよ
やうを浮ぶぞや。とうぐされぐぶ。秋ふらくと毒そそ
ぶめうくハうくぐみぶハ。をさそのがをうくうたぶぐ
人をうくくあとむぶじとうとぶうき女ぶそあう
ぶりや世ーよハ行ぶぐ。名あうあぶさうあしのれ
そうあひくあ人のぶ名しけうそうやうすあとぶと
つまぐしけを鶯花ハ弟花ぶうぐぶそぐを

ふりくぶふぶとのうをうぶたくとのおくぐぶを思ハをう
ぶりぶ。をうとうをせのくうぐ世ーやう
をぶぶ目ぶやーるひをうをせ浮ぶれ
ぶるぶばうをみとうあうぶ。えハ高ハふぶぐハをれをふ
ぶとうをうひとぶそぐちのぶ弟ぶくぐうくふをうひ
ーとぶ目あうぶうくとうをうひうをうをうのひ
に宣めうぶ。鶯花ハうをうをぶをうぐをうぐ
なうを女ふうくぐのぶをうのうをやういぐぶぐう
をぶぐをとやうふうをうめくやをを
とのハをぐだぶ。ハのをうぶをうをあせ浮ぶ
ハぶをうこのうふハのハをうをうをうをうをうを
ハぶハをのハをうをうをうをうをうをうをうをうを

身はいまだひとりもきんをとんでぐれたるものもなく
らつぼをもつたる女の紙ひとりつきぬかうれくをはの物
使ありつる物ゆかさてもこれ屋さへづくぐやとうくく
とべ屋女房をとり男ハ宮ばかりの乃ふ馬のこりひよ
ゆ屋さのぬぐしき我おぐしきの中こよりさふをれ
ろうりとりつぼんこりつぼんこりつぼんこれをぬ
こをまに場をかりたやぐとあげぬ門乃ふよ少ふん
くらして帝をとりとぬ屋てうらんつんと彩しう角
書のちんこが先こうう蒲池をうるぬぐ
なの波引ちりてゆぐあまりをふぬぐしきゆ屋形せ
ふぐぬゆるーとうりつぬ和せくやこりひうれさて
ぬうーうるさんやぐまでをあんくて中間まん

とりけぐこんのんをくよんをこぐは杉ふ揚ふ
屋のうるんゆおりくぐんとあつめ物をけきをあて
び紙ふを蒲池をうるんまつをまばぐんがんあれ
れぬぐでぬまうるあをれをひぐうあ屋蒲池の
ぬ部こうれあをたつひてをまでありてぬぐうぐよ
をうやまゆをたうあるわまばぐ揚ふいをう
先ぬ義をを文ふをまどわをれあつうをきにく
あをんぐしの蒲池やぐをいうふをやこあををの紙で
ぬんをふあんまつぐををぐうぐれ神ふをぐ
つを付ぬぐーあををやをふをんをうぐーぬぐ
ねうう紙がつあーんを世の紙ふあむをんをうぐぬる
をうれをう我をんをうをふ紙ふ屋理也れ

さ今の何とそう海をせきハク孫めうんざ山先人こと
ぶつくう月ふうそうめくれ心とつ〻を桜りの花そう風
こと花とうめくれば桜を見ゆ人をうに袖そぞ
ぬしそばやくありく桜より花ハさて古の世六
何とうあをを行ア戸ぷつうあくれりまんうえのこつよ
くふあめんくこの山はうり家をいろひ波りよ弟
けうこあぞよむをびのくま（公卿ハ源を花さ山ざん
作者御身とそてさ物ろひ一夜のころぐこよ海
うりはぐこを花ぐこゆをわりよ春の御ますう
ゆりぐこまりゆあくう春よお日和に久と先ぐりゆひを
こやセこ物りをぬやらんを海ぐゆ花ひしの色ぬ花
松まこうぐ花ざうふ物わひこんぐ春のゆまこけ

くるびたるげさ我もこもろとに沖の船をたづぬるほどめ
くるびやこゝに帰りてまつり見ざりしをと見
たるざまにつゝ者うしろ吉の人〻りをしがもわれ沖
の女とりまをとくたづぬるに此つぐあるさとこ
そとりいひつまをくをうりをたづこれ沖の
のれ利をあり〻ぶ二人乃人〻をもとりて勾配
せをとあつてとうゝ探よかをうしてのれ家を人とのゞせ
て母このれありを海をせまいゝ者うしひつまえんり
まうをれ世乃ありひふくうるあうりさよみ世をて
よ母母わうをりをて彩のゞりたうをものをこの人
べをにたゞをまうさいるひをえんだうをも使ひの
がりをたわゞをとりて海をうゞをと

こゝにをまのうをまうをとのの人〻ばしをとをもケ年
をを母彩にあり山よりおを尝る者のかゝまうを
すをうをを山田乃居あまの乃海をまゞ乃をやの
れゞをばうを有りとたをくをを稲の私乃あるを
彩ををて人をあるを母ばみををどの者まをて命をを
らんをとる対をあり人あるを海をに者
でおをを法風よ分をまうををうをを法をかをを
かくをゞをあまををひををを神やかけ乃用あるを
ををゞをとうをゞまんゞををををたをくを
をの乃おをまり者乃乃ををゞをを人をゞを
ありをとの人をを人を母者海の
下ををうゞをを母者りををに者ふをを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そとうたたこだくくやうやうとこの元亨代よ
さう物のひて亀川小亀これはまでいはひかまりて作
ぞや口乳母はたりをねぶさをあてこひられ
ぼさいも乳母もいかもあまてどだむかうぞや
まざれくいかる海こまは天てとぞあんが我わがんと
らくさんがたやよまるやくちづーが紙をもつ物と
やくあくとがそとしひくさんあ（ぼむくひの葉
ハかはさまでなくあうぞ時宴ひあよ毒りくこと
まりは年月あ元の神紙歩とくしうがやそ
くひあてぶひあひくそくつのくあぶくくこのはて
にるもと戒おとくびくしくさくいくあるくしゆくとを
亀川ぶびかうけくあるくとはくを知ぶくしはあ

ふてまつられぜんなうまつてさかぐりを海まぐ[illegible]
[illegible]養ちうとのあひてぱえとひくさはなんずるう
[illegible]とこのまえこ風くとこ[illegible]ぐこ[illegible]ぐ[illegible]
どをこ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
これいまてこうさうてうるく[illegible]
つるあ[illegible]やがてをを北國へ[illegible]
うとと拍子をかいよてもをにこれねさうしはをのをら
うどうをを鶴のこくあ[illegible]
いををのせまつ[illegible]
みはをを[illegible]
ひとひをを[illegible]
ろこ[illegible]

[illegible]月のまえだひよ[illegible]
[illegible]
よのさまひろはづ[illegible]
ばかりをををを[illegible]
きとをををを[illegible]
さてをめぐあ[illegible]
ろよあををを[illegible]
ふけあ八國司八屋ぐを[illegible]
代のをん[illegible]
けしあげまをひをぐ[illegible]
ふををとをれをまば[illegible]
ぱよ[illegible]

金町まさしのあるとのあんとの絵を頂戴と
こうへ〳〵ぶんのよわ年寄子なるゝ中あげろ加安
法師下されまかまさばつゝ光をかとあたるあ
うとうるひまぎるつくるつくるけ巴バ
そざ謙成ちぐさあり〻ハ和家
大きふうろこび和方の兵とゝ辛しそざた
ゝへをもふさるあ和後ハうひむるて実しば
ゝ和をりあ〻ぐゝたるてあげう殺ろうて和
家い市ようゝ山ろ和巴と後ゝ和平ろ
中ゝと和んごゝくまあひ和花のゝ所家田のざゝう
と代なゝしひぜん元ごふとゝをこと分ハ和よのゝう
ゝひ和ゝとゝうゝあいまるゝ和ゝ和

ひろうだ〳〵ぶ百姓ども
いまゝ相後ひぎ乃ものまえ一たんらくとな
しうた孫よハ三男よこ寄とうこうやうぐそはらの
男と成くさうこふのびくれと色沢の云命さ
ぐ前おのせきうて前を切同じく母とハ百姓のぐさ
ようが清丸西浦川ハまうこ世ようつきにそたく
つとうハ覚とうう〳〵とうてけくまね〳〵ぶりうう
程よ橋よハ多り成んふ〳〵して文母のほうりふ一男と
きてあ〳〵ぶ仲のか縁わりてこ身ふひ乃まう世ふ
世く信新こんぐくうう皮よふと孫くまで登島し
乃と表代を孫〳〵ぶりでたりけうなりとや

年の橋五孫